

めぐみイエス・キリスト教会

2024年6月23日(日) 第四主日礼拝

午前10時より

週報「通算第712号」



2024年標題聖句

マタイの福音書第6章33節

《まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌355「主と共に歩む」 p. 568

【交読文】 No.43 詩篇第136篇 p. 913

【賛美Ⅱ】 新聖歌202「一度死にしわれをも」 p. 302

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲「主の御前に」

【聖書朗読】 ルカの福音書6章1節～5節(新約p. 120)

【礼拝説教】 《安息日論争》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(ルカの福音書6章1節～5節)

6:1 ある安息日に、イエスが麦畑をとおられたときのことである。弟子たちは穂を摘んで、手でもみながら食べていた。

6:2 すると、パリサイ人のうちの何人かが言った。「なぜあなたがたは、安息日にしてはならないことをするのですか。」

6:3 イエスは彼らに答えられた。「ダビデと供の者たちが空腹になったとき、ダビデが何をしたか、

6:4 どのようにして、神の家に入り、祭司以外はだれも食べてはならない臨在のパンを取って食べ、供の者たちにも与えたか、読んだことがないのでですか。」

6:5 そして彼らに言われた。「人の子は安息日の主です。」

●ポイント1.「主イエスが言われたダビデの取った行ない」とは？

※第 I サムエル記21章3節～6節「ノブの祭司アヒレメク」(旧約p.519)

21:3「今、お手もとに何かあったら、パン五つでも、ある物を下さい。」

21:4 祭司はダビデに答えて言った。「手もとには、普通のパンはありません。ですが、もし若い者たちが女たちから身を遠ざけているなら、聖別されたパンがあります。」

21:5 ダビデは祭司に答えて言った。「実際、私が以前戦いに出て行ったときと同じように、女たちは私たちから遠ざけられています。若い者たちのからだは聖別されています。普通の旅でもそうですから、まして今日、彼らのからだは聖別されています。」

21:6 祭司は彼に、聖別されたパンを与えた。そこには、温かいパンと置き換えるために、その日、主の前から取り下げられた、臨在のパンしかなかったからである。

●ポイント2.「人の子は安息日の主です」とは？

※出エジプト記20章8節～11節「十戒第4戒から」 (旧約p.134)

20:8 安息日を覚えて、これを聖なるものとせよ。

20:9 六日間働いて、あなたのすべての仕事をせよ。

20:10 七日目は、あなたの神、主の安息である。あなたはいかなる仕事もしてはならない。あなたも、あなたの息子や娘も、それにあなたの男奴隷や女奴隷、家畜、またあなたの町囲みの中にいる寄留者も。

20:11 それは主が六日間で、天と地と海、またそれらの中のすべてのものを造り、七日目に休んだからである。それゆえ、主は安息日を祝福し、これを聖なるものとした。

●ポイント3.「神様」か、それとも単なる「人」なのか？

※ダニエル書7章13節「ダニエルの見た夜の幻から」 (旧約p.1522)

7:13 私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲とともに来られた。その方は『年を経た方』のもとに進み、その前に導かれた。

※第 I ペテロ2章6節～8節「イザヤ書からの引用」 (新約p.467上段)

◎先週の礼拝メッセージ【新しい革袋】

《バプテスマのヨハネの弟子たちが、パリサイ人と律法学者たちと主イエスの御元にやって来て質問しました。「ヨハネの弟子たちはよく断食をし、祈りをしています。パリサイ人の弟子たちも同じです。ところが、あなたの弟子たちは食べたり飲んだりしています。」

ユダヤ人は年に一回断食しなければなりませんでした。その事はレビ記に書かれており、この断食は、大祭司が年に一回、イスラエルの民の為に、至聖所において罪の贖いの儀式の後に、課せられたものでした。また、パリサイ人たちは、週に二回ほど断食していました。「花婿と一緒にいるのに、友人たちに断食させることができますか。しかし、やがて花婿が取り去られたら、その日に彼らは断食します。」

結婚式の祝宴は一週間続きます。その間に断食するような花婿の友人などいるはずはありません。また、花婿が取り去られるとは、十字架のことを予表しています。その時に、弟子たちは断食するのです。

この後、主は、パリサイ人と律法学者たちに向けて、三つのたとえを話されました。一つは、服のほころびをつくろう話です。この意味は、今までの古い生活を脱ぎ捨てて、新しいキリスト教を新たに着なければならぬということです。そして、次に、新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れるという話です。新しいぶどう酒とは、神の福音のことであり、やがて来られる聖霊のことを指しています。また、皮袋とは私たちの心を表わしています。古い皮袋とは、頑な心であり、新しい皮袋とは、柔軟性に富んだ心のことです。すなわち、み言葉に従う心、主イエスを信じ信頼する心、そして寛容な心のことなのです。最後のたとえは、パリサイ人と律法学者たちに向けての言葉です。これは、「古いユダヤ教の教えに慣れ親しんだ者は、主が説いている神の国の福音には、なかなか耳を傾けようとはしない」と言う意味です。》

お知らせ

※次回6月30日(日)第五主日は特別メッセージとなります。また、7月7日(日)は、斉藤順子先生をお迎えして宣教特別礼拝となります。